警告

聴覚障害がある場合、または難聴の症状がある場合は、耳鼻咽喉科医に相談してください。

使用に際しては、下記の点に十分に留意してください。

【一般ユーザーの方へ】

- 本品は、難聴の可能性を検出するものであり、従来の医師による診断に変わるものではありません。
- 本品は気導聴覚の低下のみを検出するものであり、本品によりその他の耳疾患に関する検出をするものではありません。
- 本品により難聴の兆候が検出された場合は、専門の医師を受診してください。
- 本品の結果を自己解釈し、医師の診断を受けずに現在行っている診療の中止等を行わないでください。
- 本品の結果にかかわらず、聴覚に症状があれば医療機関を受診してください。

【医師の方へ】

- 臨床医が十分に理解する必要があるため、【一般ユーザーの方へ】の見出しの下のすべての項目を参照してください。
- 本品は、参照の臨床聴力計に対して臨床的に検証されました。出力のオージオグラムは、臨床用途と見なすことができます。
- iPhone 上に保存された測定データは PDF 化できるため、必要な場合には患者に印刷やメー ル等での提供をお願いすることが可能です。

本品は医療機器であるため、初めに「Appleのヒアリングチェックプログラム」の添付文書をお読みください。

********** 添付文書(ここから) **********

*2025年09月　改訂（第2版）
2024年10月　作成（第1版）

医療機器承認番号 30600BZI00024000

プログラム1　疾病診断用プログラム
管理医療機器　家庭用聴力検査プログラム　JMDNコード: 71133002

Appleのヒアリングチェックプログラム

【警告】
1. 本品は、難聴の可能性を検出するものであり、従来の医師による診断に変わるものではない。[誤った判断により疾患の発見の遅れや症状の悪化等につながるおそれがある。]
2. 本品は気導聴覚の低下のみを検出するものであり、本品によりその他の耳疾患に関する検出をするものではない。[誤った判断により疾患の発見の遅れや症状の悪化等につながるおそれがある。]
3. 本品により難聴の兆候が検出された場合は、受診をすることを勧める。[誤った判断により疾患の発見の遅れや症状の悪化等につながるおそれがある。]
4. 本品の結果を自己解釈し、医師の診断を受けずに現在行っている診療の中止等を行わないこと。[誤った判断により疾患の発見の遅れや症状の悪化等につながるおそれがある。]
5. 本品の結果にかかわらず、聴覚に症状があれば受診をすることを勧める。[誤った判断により疾患の発見の遅れや症状の悪化等につながるおそれがある。]

【形状・構造及び原理等】

概要

本品は、互換性のあるウェアラブル電子製品（Apple AirPods Pro）のiOSソフトウェアモジュールで構成される医療用のモバイルアプリケーションである。

ユーザーは、本品を使用する前に、オプトインしてオンボーディングプロセスを完了する必要がある。本品は iOS デバイスを通じて登録することができ、登録関連データはAirPods Pro に送信され、保存される。オンボーディング中、ユーザーには年齢確認、使用説明資料及び警告ラベルが提供される。

iOS の User Interface（ユーザーインターフェイス、以下 UI）を通じて、ユーザーはヒアリングチェックを開始し、各耳の気道聴覚検査（以下「ヒアリングチェック」という。）を受けることができる。ヒアリングチェックを終了すると、本品は各耳のユーザーの知覚聴覚レベルを分類する。本品はオージオグラムも生成し、HealthKit に自動的に保存される。

本品による検査を行うことで、難聴を有する可能性をユーザーに示唆することができる。

本品は、ユーザーが聴覚の健康と各レベルの分類の背後にある意味について理解するための教材を提供する。

主たる機能

本品には、以下の主たる機能がある。

項目	内容
各耳の知覚された難聴レベルを分類する	本品によるヒアリングチェックを実施した結果に基づき、500、1000、2000、及び 4000Hz の聴覚閾値の平均である Four-Frequency Pure Tone Average（4 周波数の純音聴力検査。以下「4PTA」という。）を出力する。 【入力項目】 ヒアリングチェック時のユーザーのタップ 【出力項目】 出力結果：測定された4 PTA ほとんど難聴ではない：25 dB HL以下 軽度難聴：26 dB HL以上～41 dB HL未満 中等度難聴：41 dB HL以上～61 dB HL未満 高度難聴：61 dB HL以上～81 dB HL未満 重度難聴：81 dB HL以上 ※各耳の結果が表示される。重症度の高い結果も全体的な分類として表示される。提供される指示は、より高い重症度の結果に基づいている。
オージオグラムを生成してHealthKitに保存する	【入力項目】 ヒアリングチェック時のユーザーのタップ 【出力項目】 250、500、1000、2000、3000、4000、6000、8000Hzの8つのデータポイントを持つオージオグラム

その他の機能

本品には、以下のその他の機能がある。

項目	内容
外部装置との入出力機能	HealthKit からインポートされたオージオグラムの受入れ。オンボーディングデータ及び微調整パラメータ、並びに本品と AirPods Pro プロセッサ間での転送。
環境騒音チェック	ヒアリングチェックの前とチェック中に、環境の騒音レベルを監視する。環境騒音が 33 dBA を超えると、ヒアリングチェックのプロセスは一時停止される。

【使用目的又は効果】

本品は、気導聴覚検査を実施し、難聴を有する可能性をユーザーに通知する家庭用プログラムである。また、聴覚能力をプロファイリングした結果からオージオグラムを作成する。

本品は、18 歳以上の成人が使用することを意図している。

【使用方法等】

(1) セットアップ／オンボーディング

①. AirPods ProがiPhone若しくはiPadとペアリングされていることを確認する。

②. ステムを下向きにして、AirPods Proを対応する耳に挿入する。耳にぴったりとフィットすると、環境騒音がテスト結果に影響を与えず、正確な検査が可能となる。

③. 次のいずれかの方法で本品にアクセスする。

a. 設定を開く→[名前]のAirPods Pro→ヒアリングチェックを受ける。

b. ヘルスケアアプリを開く→右下の虫眼鏡アイコンをタップするか、[ブラウズ]をタップする→聴覚をタップする→ヒアリングチェックの結果をタップする。

c. AirPods Pro セットアップのプロンプト→ AirPods Proを最初にセットアップすると、最初のヒアリングチェックを受けるかどうかを尋ねられる。

④. 画面指示に従う。

a. 生年月日を入力する。

b. 現在、アレルギー、風邪、耳や副鼻腔の感染症を罹患しているかどうかを示す。

c. 過去24時間以内にコンサートや建設現場などの騒々しい環境にいたかどうかを示す。

⑤. 環境騒音チェックを完了するために静かな部屋に移動する。

⑥. 本品は、AirPods Proで適切なイヤーチップを着用しているかどうかを確認する。画面の指示に従って、イヤーチップフィットチェックを完了する。

⑦.「キャンセル」をタップして、いつでもオンボーディングを終了することができる。

(2) ヒアリングチェックの実施

①. ヒアリングチェックが始まると、AirPodsは一連のトーンを再生する。
②. 音が聞こえたらボタンをタップする。
③. 画面の指示に従って、ヒアリングチェックを完了する。
④. 本品は、12ヶ月ごとに聴力を再検査するように自動的に通知する。

(3) ヒアリングチェックの結果
①. 検査が完了すると、ヒアリングチェックの結果が届く。耳ごとに次のいずれかの分類を受け取る。
②.ヒアリングチェックの結果の分類は、0.5、1、2、及び4kHzの聴覚閾値の平均である4周波数の純音聴力検査（以下4PTA）に基づいている。

分類	4PTA値の範囲
ほとんど難聴ではない	25 dB HL以下
軽度難聴	26 dB HL以上～41 dB HL未満
中等度難聴	41 dB HL以上～61 dB HL未満
高度難聴	61 dB HL以上～81 dB HL未満
重度難聴	81 dB HL以上

③.測定された各聴覚閾値（0.25、0.5、1、2、3、4、6、及び8 kHz）の値を持つ完全なオージオグラムは、詳細結果ビューに示される。オージオグラムは、ヘルスケアアプリの聴覚カテゴリにも保存される。

＜使用方法等に関連する使用上の注意＞

1. 本品の結果は、World Health Organization（世界保健機関）が開発した国際的な難聴スケール(1991)に基づいている。日本聴覚学会は、難聴の分類に異なる尺度を使用している。下の表 1 に示すように、本品が使用している国際分類スケールと日本の分類スケールに差があることに留意すること。

表1 難聴分類の違い

分類	本邦（日本聴覚医学会 難聴対策委員会報告書（2014.7.1））	本品（世界保健機関（1991））
聴覚障害なし	24 dB HL以下	25 dB HL以下
軽度難聴	25 dB HL以上～40 dB HL未満	26 dB HL 以上～41 dB HL 未満
中等度難聴	40 dB HL以上～70 dB HL未満	41 dB HL 以上～61 dB HL 未満
高度難聴	70 dB HL以上～90 dB HL未満	61 dB HL 以上～81 dB HL 未満
重度難聴	90 dB HL以上	81 dB HL 以上

2. 騒音が大きな環境でヒアリングチェックを行わないこと。最も静かな部屋、又は街(外部)の騒音、テレビやオーディオの音、大きなファン、大きな音を発生する家電製品などから離れた場所を選択すること。
3. ヒアリングチェックを妨げる可能性があるため、ヒアリングチェック中に話したり、ガムを噛んだり、食べたり、飲んだりしないでこと。
4. 過去 24 時間以内の大きな騒音への暴露や鼻詰まりのような症状の存在は、ヒアリングチェック結果に影響を与える可能性がある。

【使用上の注意】

＜重要な基本的注意＞

1. 左右の聴力差が大きい場合には、適切な検査ができない可能性がある。

＜不具合＞

その他の不具合
故障、誤った結果の出力、測定不良

＜有害事象＞

1. 重大な有害事象
疾患発見の遅れ、症状の悪化

2. その他の有害事象
受診の遅れ

＜その他の注意＞

1. 18 歳未満の方が使用した際の性能は評価されていない。

【臨床成績】

臨床試験データ、文献検索、臨床経験データ結果から構成される本品に関する臨床評価報告書の概要は以下のとおりである。

臨床試験:
様々な難聴分類にわたる 18 歳以上の 202 例を対象とした臨床試験を検証した。本臨床試験では、聴覚士が実施する従来の純音聴力検査を基準として本品による聴力測定結果を比較した。登録被験者は、世界保健機関 (1991)の分類に基づき聴覚障害がほとんど又はまったくない（≤ 25 dB HL）、軽度難聴（26～40 dB HL）、中等度難聴（41～60 dB）、高度から重度難聴（61～85 dB HL）に分類された。被験者は本品の使用対象集団を代表する特定の年齢と性別のターゲットに基づいて登録された。

文献検索:
成人に対する処方箋不要の気導聴力検査分野における最先端技術に関連した文献検索では 41 件の文献が特定された。本品に関連する安全性と性能の文献検索では評価対象となる文献は特定されなかった。

臨床経験:
本品は上市されていないため、本品に関する臨床経験に関する検索は実施しなかったが、本品の安全性に関連する可能性のある、潜在的な未知の安全性の問題を評価するために、類似医療機器について FDA Recalls、FDA MAUDE、BfArM、Health Canada、MHRA、SwissMedic のデータベースを検索した。

[有効性]
臨床試験:
主要評価項目の結果、すべての耳における本品による検査に基づく 4PTA（本品 4PTA）と基準オージオメータによる検査に基づく4PTA（基準4PTA）間の中央絶対偏差（Median Absolute Difference : MAD）は 1.81 dB HL、95%CI は（1.49、2.30）であった。≤ 10 dB HL、≤ 7.5 dB HL、≤ 5 dB HL での性能目標（両側95%信頼区間の上限が、それぞれの性能目標と等しいか、それ以下であった場合）はすべて P ＜ 0.0001（未調整と調整の両方）であり、本品による聴力測定の正確性は、基準聴力検査機器と同程度であることが示された。

また、副次評価項目の結果、本品4PTA と基準 4PTA の相関は 97.4%、95% CI（96.8、97.9）であり、本品による検査に基づく 8PTA と基準オージオメータによる検査に基づく 8PTA の相関は、97.9%、95% CI（97.4、98.3）であった。

文献検索:
最先端技術に関する文献検索では、アクセスしやすいモバイルアプリケーションによる聴力測定の必要性及びその精度が示された。また、米国 FDA が承認した 2 つの既存品を評価した。どちらの製品も、臨床的に許容可能な MAD 目標を 10 dB HL に設定しており、臨床試験結果の MAD はいずれの製品においても 8.1 dB HL 未満であった。

臨床経験:
本品はまだ上市されていないことから、臨床経験からは有効性に関するデータは得られなかった。

[安全性]
臨床試験:
本品の臨床試験では、有害事象は報告されなかった。

文献検索:
新たな安全性に関するリスクは特定されなかった。

臨床経験：

類似医療機器における FDA Recalls、FDA MAUDE、BfArM、Health Canada、MHRA、SwissMedic のデータベース検索の結果、FDA Recalls データベースにおいて製品コード EWO（Audiometer - Ear Nose & Throat）の検索で 4 件のリコールが特定されたが、いずれも類似医療機器に関連するものではなかった。また、FDA MAUDE データベースで 1 件のラベルに関する報告、MHRA で類似機器に関連しない 4 件の安全性報告が特定された。

【承認条件】

関連学会と連携の上、使用者及び医療従事者が本品の特徴や位置づけ等を理解し適切に本品の使用がなされるよう、必要な措置を講ずること。

選任製造販売業者：

ヴォーバル・テクノロジーズ株式会社

電話番号：03-5544-8340

製造業者：Apple Inc.（米国）

********** 添付文書（ここまで） **********

販売名	Appleのヒアリングチェックプログラム
製造番号・製造記号	バージョンを画面に表示
内容量	1プログラム
クラス分類	管理医療機器
医療機器承認番号	30600BZI00024000
一般的名称	家庭用聴力検査プログラム
外国製造医療機器等特例承認取得者の氏名及びその住所地の国名	氏名：Apple Inc. （邦文：アップル　インク） 国名：アメリカ合衆国
選任外国製造管理医療機器等製造販売業者	氏名：ヴォーパル・テクノロジーズ株式会社 住所：東京都新宿区上落合 3 丁目 10 番８号 オーバル新宿ビル

使用説明

Apple Inc.
One Apple Park Way
Cupertino, CA 95014
United States
www.apple.com

使用目的又は効果
本品は、気導聴覚検査を実施し、難聴を有する可能性をユーザーに通知する家庭用プログラムである。また、聴覚能力をプロファイリングした結果からオージオグラムを作成する。本品は、18 歳以上の成人が使用することを意図している。

対象の集団および意図しているユーザ
本プログラムはオーバーザカウンターの空気伝導聴覚評価で、18 歳以上のユーザが聴力のプロファイリングおよびオージオグラムの生成を行うことを示しています。

注意事項と警告

- Apple のヒアリングチェックプログラムは 18 歳以上のユーザを想定しています
- 騒音の多い環境でヒアリングチェックを行わないでください。静かな部屋、または街頭の騒音、テレビの音声、大きな音をたてる扇風機、騒音を出す家電などから離れた場所を選んでください
- 検査中は、話したり、ガムを噛んだり、飲食を行ったりしないでください。検査結果に影響する場合があります
- 過去 24 時間以内に大きな騒音を聞いた場合や、鼻づまりがある場合は、検査結果に影響する可能性があります
- Apple のヒアリングチェックプログラムは、聴覚専門医による医学的アドバイスよりも優先されるものではありません。
- 健全な聴力は、多くの要因によって構成されます。以下の問題が発生している場合は、聴覚専門医の診察を受けることを検討してください:
    - 過去 6 か月以内に耳から血、膿、または液体が出た
    - 耳に痛みがある、または不快感がある
    - 耳あかが多い、または外耳道に何かが入っているように感じる
    - 頻繁にめまいを感じる、または揺れたり回転したりしているように感じる
    - 過去 6 か月以内に聴力が突然変化した

  - 聴力が変化する：悪くなったりよくなったりする
  - 片耳だけ聞こえが悪い、または片耳だけ耳鳴りがする
- Apple のヒアリングチェックプログラムの使用後も不安が残る場合は、聴覚専門医に相談してください

カスタマーサポート

この情報およびその他の表示(取扱説明書など)はhttps://www.apple.com/jp/legal/ifuで入手できます。また、App1eのヒアリングチェックプログラムについて」画面の「Appleサポートに問い合わせ」オプションからAppleサポートに電話するか、medicalcompliance@group.apple.comにメールを送る、またはOne Apple Park Way, Cupertino, CA 95014に手紙を送ることで、この情報およびその他の表示の紙のコピーを請求することもできます。

セキュリティ

iOS互換デバイス(iPhone、iPadなど)にパスコード(個人識別番号[PIN])、Face IDまたはTouch ID(指紋)を追加して、さらなるセキュリティ対策を講じることをおすすめします。iOSデバイスに個人健康情報を保存することになるため、iOSデバイスのセキュリティ保護は重要です。最新のセキュリティ修正を迅速に導入できるよう、iOSの追加アップデートの通知がデバイスに届き、ワイヤレスでアップデートが配信されます。iOSのセキュリティガイドは、https://support.apple.com/guide/security/welcome/webを参照してください。Appleのセキュリティ慣行が記載されており、すべてのユーザが利用できます。

お使いのデバイスにセキュリティ関連の問題があると思われる場合、または報告されたい場合は、セキュリティ関連の問題でお困りのときにどうすればよいかを説明したAppleのサポートWebページを参照してください(https://support.apple.com/111756) 。

使用開始ガイド

- Apple のヒアリングチェックプログラムは、iOS デバイス(iPhone、iPad など)とペアリングした AirPods Pro(第 2 世代)と互換性があります。利用できる地域および対応するデバイスについては、https://www.apple.com/airpods-pro/feature-availability/を参照してください。
- iPhone/iPad を最新の iOS にアップデートしま
- AirPods Pro が最新のファームウェアにアップデートされていることを確認してください
- AirPods Pro が iPhone/iPad にペアリングされていることを確認します
  - AirPods Pro を iPhone にペアリングする方法について詳しくは、https://support.apple.com/kb/HT207010 を参照してください。

- AirPods Pro を対応する耳に装着し、柄の部分が下向きになるようにします。ぴったりとフィットさせることで、周囲のノイズが検査結果に影響しなくなり、検査が正確になります。

- 以下のいずれかの方法で Apple のヒアリングチェックプログラムにアクセスします:

  - 「設定」を開く→「[名前]の AirPods Pro」→「ヒアリングチェックを受ける」をタップ

    - 注記:鼻づまりや大きな音により、ヒアリングチェック結果の精度が影響を受ける場合があります。鼻づまりが回復するか、大きな音を聞いてから 24 時間が経過して聴力が回復するまで待つことを検討する必要がありま

- 静かな場所を見つけて検査を受けてください。Apple のヒアリングチェックプログラムでは、検査に進む前に、それぞれの耳に AirPods がフィットしているかをチェックして周囲のノイズレベルを測定します。

  - **注記:**気が散るものを極力減らすため、Apple のヒアリングチェックプログラムによって「おやすみモード」がオンになります。

  - **注記:**Apple のヒアリングチェックプログラムによって耳に AirPods が十分にフィットしていないと判断された場合は、AirPods を調整してぴったりフィットさせるか、イヤーチップのサイズを変える必要があるかもしれません。AirPods Pro(第 2 世代)には、さまざまなサイズのイヤーチップ(XS、S、M、L)が付属しています。AirPods Pro のイヤーチップの交換について詳しくは、https://support.apple.com/jp-jp/HT210633 を参照してください。

  - **注記:**非常に静かな部屋では、正確な結果が得られます。周囲に騒音がある場合、検査は一時停止します。続けるには、騒音が収まるのを待つか、静かな場所に移動するか、静かな時間に検査を受けます。

ヒアリングチェックを受ける

- ヒアリングチェックが始まると、AirPods Pro で一連のトーンが再生されます

- トーンが聞こえたら、画面をタップします。それぞれのトーンは、複数回再生されます

- 画面の指示に従ってヒアリングチェックのセッションを終えます

  - **注記:**Apple のヒアリングチェックプログラムが周囲に大きな騒音を検出した場合、ヒアリングチェックのセッションが一時停止します。続けるには、騒音が収まるのを待つか、静かな場所に移動するか、静かな時間に検査を受けます。検査を終えることもできますが、すべての進捗が失われます

  - **注記:**Apple のヒアリングチェックプログラムの使用中にどちらかの AirPods を取り外すと、ヒアリングチェックのセッションが一時停止します。続けるには、

AirPods を耳に装着し直してください。検査を終えることもできますが、すべての進捗が失われます

- **注記:**ヒアリングチェックの一時停止が長時間継続すると、検査が自動的に終了し、もう一度始めなければならなくなります

ヒアリングチェック結果

- 検査が正常に完了すると、ヒアリングチェック結果を受け取ります。ここには、それぞれの耳の聴力の低下の分類が含まれます

  - ヒアリングチェック結果は、500Hz、1kHz、2kHz、および 4kHz の聴力しきい値の平均である 4 周波数純音平均(4PTA)に基づきます。

  - 測定された聴覚しきい値(250Hz、500Hz、1kHz、2kHz、3kHz、4kHz、6kHz、および 8kHz)のそれぞれの値を含む完全なオージオグラムは、「詳細情報を表示」を選択すると表示されます。このオージオグラムは、ヘルスケアアプリの「聴覚」力テゴリにも保存されます

  - 世界保健機関(WHO)のガイドラインおよび 4PTA 値範囲による別の聴力の低下の分類は、次の表で確認できます:

出力結果	測定された4PTA
ほとんど難聴ではない	25 dB HL以下
軽度難聴	26 dB HL以上～41 dB HL未満
中等度難聴	41 dB HL以上～61 dB HL未満
高度難聴	61 dB HL以上～81 dB HL未満
重度難聴	81 dB HL以上

- **注記**:Apple のヒアリングチェックプログラムには、85 dBHL の測定上限値があります。聴力の低下が検査上限を超えており、自分の聴力の低下について詳しく知りたい場合は、聴覚専門医の診察を受けてください

- 注記:12 か月ごとに新しいヒアリングチェックを受けて聴力を判定することをおすすめします。

安全性と性能

Appleのヒアリングチェックプログラムは、さまざまな聴力の低下に分類される18歳以上の202名を対象とした臨床研究で検証されました。本研究では、Appleのヒアリングチェックプログラムを使用して被験者の聴力を測定し、聴覚訓練士による従来型の純音聴力検査を基準として比較しました。登録された被験者は、以下の各力テゴリを代表した分布になっています:低下なし/ほぼなし(25 dBHL以下)、軽度の低下(26～40 dBHL)、中等度の低下(41～60 dBHL)、および重度および高度の低下(61～85 dBHL)。また、意図されたユーザ集団を代表するように、年齢および性別のターゲットに基づいて登録されました。

臨床研究の結果から、純音聴力検査を基準とした場合に、Appleのヒアリングチェックプログラムの結果は、聴覚訓練士が取得したオージオグラムの結果と同等であることが分かりました。利用可能なすべてのオージオグラムを比べた結果、Appleのヒアリングチェックプログラムと基準となる検査との4PTAおよび8周波数純音平均(8PTA)値の想定中央絶対偏差(MAD)は、それぞれ1.81 dBHL(95% CI:1.49、2.30)および1.75 dBHL(95% CI:1.59、1.92)でした。また、被験者のいい方の耳での2 つのグループでの全体での聴力の低下の分類の一致率は、同じ分類となった比率は86.4%、±1の分類となった比率は100%でした。

この研究でデバイス関連の有害事象は報告されていません。

この研究の実施において、結果に影響を与えるような実施計画書からの逸脱またはデータの欠落はありませんでした。全体として、この臨床研究はAppleのヒアリングチェックプログラムの安全性と有効性を合理的に保証するものです。

AirPods Proのバッテリーと充電

Appleのヒアリングチェックプログラムは、充電可能なバッテリーを搭載したAirPods Pro(第2世代) と互換性があります。AirPods Proは、1回の充電で約6時間バッテリー駆動するように設計されています。AirPods Proは、ペアリングした充電ケースで充電できます。5分間の急速充電で約1時間利用できますが、1時間の充電でAirPods Proを完全に充電できます。AirPods Proは、バッテリーが少なくなり、充電が必要になると、音で合図します。Appleのヒアリングチェックプログラムを開始する前に、AirPods Proが十分充電されていることを確認してください。
AirPods ProおよびAirPods Proケースの充電の手順について詳しくは、
https://support.apple.com/guide/airpods/devde25a4bbe/webを参照してください。

トラブルシューテイング

Appleのヒアリングチェックプログラムの操作に問題が生じた場合には、以下のトラブルシューテイングガイドの解決策一覧を参照してください。

問題: Appleのヒアリングチェックプログラムが設定より先に進まないか、いつも途中で止まります
解決策:

- 初期チェックで AirPods Pro に問題が見つかった場合は https://support.apple.com/120991 を参照してください
- AirPods を回転させ、正しい向きになる(ぴったりフィットするまで柄の部分を下に向ける)ようにしてください
- Apple のヒアリングチェックプログラムには、静かな部屋が必要です。周囲に騒音がある可能性があります。続けるには、騒音が収まるのを待つか、別の場所を見つけるか、静かな時間に検査を受けます

問題：Appleのヒアリングチェックプログラムで、AirPods Proがフィットしていないと表示されます

解決策:

- Air Pods を回転させ、正しい向きになる(ぴったりフィットするまで柄の部分を下に向ける)ようにしてください
- 別のサイズのイヤーチップに交換してみてください AirPods Pro(第 2 世代)の箱には、異なるサイズのイヤーチップ(XS、S、M、L)が入っています。

問題：Appleのヒアリングチェックプログラムの結果が表示されません

解決策:

- Apple のヒアリングチェックプログラムには、静かな部屋が必要です。周囲に騒音がある可能性があります。続けるには、騒音が収まるのを待つか、別の場所を見つけるか、静かな時間に検査を受けます
- Apple のヒアリングチェックプログラムで、タップのパターンに応じた結果を生成できない場合があります(タップが遅い、タップに一貫性がない、複数回タップしたなど)。トーンが聞こえたら、すぐにタップするようにしてください

技術仕様

デバイス要件	AirPodsを除くAirPods Pro(第2世代)以降 iPhone Xs以降 iPad Pro(M4)、12.9インチiPad Pro(第3世代以降)、 11インチiPad Pro(第1世代以降)、iPad Air (M2)、 iPad Air(第3世代以降)、iPad(第7世代以 降)、iPad mini(第5世代以降)
オージオメーターのタイプと分類	タイプ4、空気伝導
刺激タイプ	パルストーン
検査周波数範囲	250～8000 Hz
検査音量範囲	-10～85 dBHL
ゆがみ	<2.5% THD 最大
応答時間範囲	約2～3 秒

機器記号

製造元

使用前に説明をお読みください

MD 医用電気機器

_____

099-47887 リビジョンC, 2025年9月